

# 勉強したくないなら資格を取れ！

## 『勉強は、進む道を照らす灯り』

夏休みが終わり、受験まであと半年になりました。もちろん、受験勉強はもう始めていますよね？(笑)もしかしたらまだ始めていない人もいるかもしれません。では一度、勉強を“する”理由と“しない”根拠を考えてみましょう。

まずは、なぜ勉強するのか。この質問に対する答えは、行きたい学校に行くための受験勉強、好きな教科・内容を学ぶため、なりたい職業になるための資格勉強などなど、皆さんそれぞれの状態や状況によって、いろいろな理由があると思います。

それでも、勉強をしたくないからと言って、勉強しない人もいます。本当にしなくていいんですか？そこに、勉強をしないで良い“根拠”はありますか？友達や先生だけでなく、見ず知らずの大人も納得させられる根拠が示せますか？根拠が無いのに「自分は大丈夫」と自信を持つ人も居ます。少なくとも“この分野・科目は好きだ！得意だ！”は言おう！

## 『理数こそ変革の未来を歩くシューズ』

技術革新やAIの導入など、社会では理数の力を持つ人材を求める動きが、ますます顕著になってきました。しかし一方で、全国学力状況調査においては、小学生の理科の全国平均点が50点を下回る結果になり、理科が苦手・嫌いな子どもたちが増えてきています。社会でのニーズが高まる反面、理科が嫌い・苦手という子どもたちがあまりにも多い現状です。

少し前、それこそコロナ禍になるまでは、「理数が嫌い・苦手だ」という人でも、出来ることや仕事はたくさんありました。しかし、コロナ禍になり、『デジタルトランスフォーメーション』というとても大きな技術革新が進んだことで、リモートワーク環境の普及や通信販売、通信教育の普及など、理数の力が存分に活かされた社会に進化しています。

これにより、「理数が嫌い・苦手だ」という人は大きく出遅れたり、時代の流れに置いていかれる状態になる可能性がどんどん高まってきました。

リモートワーク環境の普及により、場所に関係なくいろいろなことが出来る社会になり、競争の激化が予測されます。高まるニーズや理数の学力の現状を見れば、今、理数に強くなることは、周りとは大きな差をつけることが出来るのは誰が見ても明らかです。

そんな今だからこそ、理数そのものの価値、学ぶことの価値がより一層高くなっています。

## 『資格は君を助ける止まり木になる！』

検定資格などの「実力証明」としての役割を果たす資格は、自動車免許や医師免許などのように、ある種の「許可証」の役割を果たすものとは異なります。そんな検定資格にも、若い世代がより大きな恩恵を受けるだけの価値・役割があります。

それこそが、「資格は学力のセーブポイント」になるということです。ゲームで遊んだことがある人なら分かると思いますが、「セーブポイント」とは、次に遊ぶときのために進捗を保存しておくための場所・機能のことです。資格取得は、学力のセーブポイントとして使うことができます。

殆どの場合、検定資格による実力証明は一生物です。一度資格を取ってしまえば、進学だけでなく就職に使うことはもちろん、社会から「これだけの実力を持っている」という評価を受け続けることができます。「自分はここまで出来るんだ」という評価を一生得るために、まさに勉強している今のうちに、実力を「保存」しておきませんか？

## 『攻めも守りも資格で武装』

実力のセーブポイントにもなる資格。社会に出たときや、特に宮城県では高校入試において、あなたの武器になってくれます。

宮城県の高校入試制度には、“共通選抜”と“特色選抜”が存在します。“共通選抜”が従来通り試験当日のペーパーテストの点数のみで合否判定が行われるのに対し、“特色選抜”では、ペーパーテストの点数に加え、これまでに得た実績や資格など、調査書に基づいた評価も加わった、合否判定が行われます。

つまり、検定資格をとることで、他の受験生にはない『特色』『特長』を持つことができ、共通選抜だけでなく、特色選抜においても、選考してもらえる可能性が高まります。その分だけ、合格に限りなく近づけるといえるわけです。

『特色』『特長』として検定資格を利用する場合、検定級やレベルは重要ではありません。自分の同級生を見てみてください。何人が検定資格を持っていますか？恐らく、みんなが持っているというわけではないと思います。

「自分は持っていない…」と悲観する人もいるでしょう。『特色』『特長』とは、周りとの違いです。例えば、資格を1つ持っていれば、それだけで『特色』『特長』になります。中3だからといって中3の級を取る必要はありません。自分が取れそうなレベルの級でも、周りとの『違い』を作ることが出来ます。

中学生が目の前に控える高校受験でも大きな価値があり、取得すれば一生使える検定資格。取れるうちに取得して、有効活用しませんか？

## ひとくちからふる

### 『広がるメタバースと数学・理科』

仕事のAI化、リモートワークなど、通信技術の発展や技術革新の中で、『メタバース』というコンテンツの動き、発展によって、日本だけでなく世界中が大きな進化を遂げようとしている今、日頃の学習、特に数学・理科の力はより一層求められることとなります。

文部科学省、経済産業省は、『数理資本主義』という言葉と共に、今の社会での“数学”や“理科”の重要性、『理数系人材』を求める社会の動きについて分析、提言しています。また、理系・文系に寄らず、数学の力が必要であることは、様々な大学の入試科目にも表れていて、早稲田大学をはじめ、文系学部の入試科目に数学を追加する動きが見られます。

この動きは、これからの社会の進化において、数学・理科の力がどの分野でも必要になってくるということの証明ではないでしょうか。

でも実際は、“理数嫌い”の学生がますます増え、社会問題としても取り上げられています。今年行われた全国学力状況調査では、小学生の理科の全国平均点が5割を下回るという衝撃の結果となりました。

社会が理数の力を求める一方で、教育現場では理数の力が伸びていないのが現状。このままでは、技術革新が見込めない、発展性のない社会になってしまいます。

だからこそ今がチャンスです！数学・理科を楽しく自分らしく身に付けて、周りとは差をつけましょう！

経済産業省  
数理資本主義の時代  
～数学パワーが世界を変える～

